

CITATION:Dodd JM, Deussen AR, Grivell RM, Crowther CA. Elective birth at 37 weeks' gestation for women with an uncomplicated twin pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group , 2014 Issue 2. Art. No.: CD003582 DOI: 10.1002/14651858.CD003582.pub2  
CRG名:Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月:12 December 2013  
Clib issue No.;N/U: "2014 Issue 2; Update

## アブストラクト

**背景:** 正期産前時に他の合併症がない双胎妊娠女性に至適な出産のタイミングは不明で、37週時の選択的分娩、さらには待機的管理(自然分娩開始までの待機)の双方への臨床的支援が行われている。

**目的:** 他の合併症がない双胎妊娠女性において、妊娠37週からの選択的分娩の方針を待機的管理のアプローチと比較すること。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register (2013年12月12日)を検索した。

**選択基準:** 双胎妊娠で妊娠37週からの選択的分娩の対象となった母親および乳児のアウトカムと待機的管理下にあった対照のアウトカムとの比較データを報告したランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名以上のレビューアが個別に試験の適格性、試験の質を評価し、組み入れた試験からデータを抽出した。

**主な結果:** "女性271例および乳児542例が関与する、合併症のない双胎妊娠女性の37週時の選択的分娩を待機的管理と比較した2件のランダム化比較試験を組み入れた。1試験は全体的なバイアスリスクが低く、もう1試験の選択バイアス、施行バイアス、検出バイアスのリスクは不明であった。

妊娠37週時の選択的分娩の方針と待機的管理との間に、帝王切開による出産[2試験; 参加者271例; リスク比(RR) 1.05; 95% 信頼区間(CI)0.83~1.32]; 周産期死亡率または重篤な周産期罹病率(2試験; 乳児542例; RR 0.34; 95% CI 0.01~8.35); 母体死亡率または重篤な母体罹病率(1試験; 女性235例; RR 0.29; 95% CI 0.06~1.38)に関する統計的な有意差は特定されなかった。

これら2試験によって報告された所定の二次的な母体および乳児レビューアウトカム(輸血が必要な出血; 器械分娩; 羊水混濁; 5分時に7未満のアップガスコア; 新生児集中治療室への入院; 2500g未満の出生時体重; 新生児脳症; 呼吸窮迫症候群など)について、2つの治療方針間に統計的な有意差はなかった。所定のレビューアウトカムではなかったが、待機的管理と比較した妊娠37週時の選択的分娩については、乳児の出生時体重において標準より3SD未満であるSGA(週数に比して低体重児)の発生リスクが有意に減少した(1試験; 乳児470例; RR 0.30; 95% CI 0.13~0.68)。

**レビューアの結論:** 合併症のない双胎妊娠女性で妊娠37週時の早期出産を待機的管理の継続と比較した場合に、有害性リスクの増加は伴わないと見られ、結果は二絨毛膜双胎児妊娠女性の妊娠37+0週時における分娩を推奨する英国国立臨床研究所(NICE)の勧告と一致する。さらに長い出産時の在胎週数への女性のランダム化を可能にするだけの臨床的均衡が存在する可能性は低い。

## 平易な要約(Plain language summary)

### 合併症のない双胎妊娠女性における妊娠37週からの選択的出産

双胎妊娠女性に至適な出産のタイミングはわかっておらず、妊娠37週時の(分娩誘発または帝王切開のいずれかによる)選択的出産および自然分娩開始までの待機(待機的管理)の双方への臨床的支援が行われています。

本レビューには、妊娠37週時の双胎妊娠女性が全部で271例関与する2件のランダム化比較試験を組み入れました。2試験中1試験(女性235例が関与)は質が高く、2番目の試験(女性36例が関与)の質は不明でした。妊娠37週時に選択的出産をした女性群と自然分娩を待った女性群との間にアウトカム:帝王切開による出産、(胎児または新生児の)周産期死亡率または重篤な周産期罹病率、母体死亡率または重篤な母体罹病率に関する差異は認められませんでした。他の妊娠および出産合併症または乳児の合併症について、2群の女性間に差異はありませんでした。

合併症のない双胎妊娠女性において、待機的管理の継続と比較した妊娠37週時の選択的出産に有害性リスクの増加は伴わないと見られます。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年5月29日

**ご注意:**この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。